

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

千葉県 八千代市立村上中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 45校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

#### 挨拶（5分）

#### 準備体操（10分）

#### 主運動（30分）

#### まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等）を設け、  
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

#### 挨拶・自己紹介（10分）

#### オリンピックの価値を伝える（10分）

#### グループワーク（20分）

#### まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年5月22日 (月)
- 場 所 : 八千代市立村上中学校
- ク ラ ス : 2年A組 34名、2年B組 34名
- オリンピアン : 村上 睦子 先生 (バスケットボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・村上先生から自己紹介。運動の時間の中で「ルールを守り、どんなことも全力で取り組むこと」「皆で協力し合って心をつにすること」「皆でアイデアを出し合い、チームで工夫してチャレンジすること」の3点を約束して、バスケットボールを使ったウォーミングアップを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班に分かれてシュート競争を実施。2箇所のゴール下に12枚のフェルトマーカーを置き、赤いマーカー3個を3ポイントシュートラインに設置。バスケットコートのハーフライン付近からスタートし、各マーカー位置からシュートを打ち、シュートが決まったらゴール裏に置かれたマーカーを持ち帰る。フェルトマーカーからのシュートは1点、赤マーカーからのシュートは2点とし、合計点を競う。

4. まとめ



・運動の時間に行った行動や考え方はオリンピックバリューにつながっており、オリンピックバリューはオリンピックだけのものではないと話す。座学の時間ではオリンピックバリューについて詳しく話すと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・村上先生が出場したアトランタ大会の中国戦の映像を見せながら当時の心境や相手選手について紹介した後、オリンピックシンボルの意味やオリンピックの歴史について説明。
- ・自身の経験から、チャレンジすることの素晴らしさ、思いやりをもつことの大切さを話し、それらはオリンピックバリューにつながると伝えた。

3. グループワーク



- ①運動の時間に実践できていたオリンピックバリューについて考える。
  - ・最初はできなかったができるように努力した（エクセレンス）、仲間と協力する、相手を思いやる（フレンドシップ）、仲間を尊敬する（リスペクト）等の意見が挙げられた。
- ②日常生活に活かせるオリンピックバリューについて考える。
  - ・失敗を恐れず全力でチャレンジする（エクセレンス）、部活でコミュニケーションを取る（フレンドシップ）、誰にでも笑顔であいさつする（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは普段の生活の中にもあり、この気持ちを持ちながら生活することは大切なことだと伝える。東京2020大会では選手、ボランティア等でも携わることができる。自国でオリンピックが開催されることは貴重なことであると話し、オリンピックに携わってほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年5月23日 (火)
- 場 所 : 八千代市立村上中学校
- ク ラ ス : 2年C組 (35名)、2年D組 (35名)
- オリンピック : 加藤 友里恵 先生 (トライアスロン)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・加藤先生から自己紹介とトライアスロン競技について簡単に説明。「一生懸命取り組むこと」「皆で協力すること」「ルールを守ること」を目標として伝えた後、ウォーミングアップを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班に分かれて3種類の運動 (1列に並んでボール渡し2種類と馬跳び) を組み合わせたリレーを実施。  
 ・各回終了後、チームで話し合った作戦を発表し、全2回を実施。

4. まとめ



・3つの目標を達成できたかを確認した後、オリンピックバリューに触れ、1つ1つの動作を素早く行うこと、つなぎをスムーズにすること、時間を短縮することの両立は難しかったと思うが、声を出かけあっていたり、動きもスムーズにする工夫ができており、皆良く取り組めていたと伝える。クールダウンの運動を行い、授業終了。



## ■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



・加藤先生が出場したリオデジャネイロ大会の映像を見せながら競技や当時の心境について紹介。オリンピックの歴史やオリンピックシンボルの意味を説明した後、自身の経験を交えながらオリンピックバリューについて説明。

### 2. オリンピックの価値を伝える



### 3. グループワーク



・運動の時間を通してオリンピックバリューに当てはまったことを考える。  
 ・ひとつの目標に向かって頑張った、全力で楽しむことができた、一生懸命最後まで取り組めた、（エクセレンス）、一人一人が協力し合う、失敗しても励まし合う、声をたくさん出す（フレンドシップ）、他のチームが凄く声が出ていて尊敬できた、同じチームの人に感謝、他のチームが勝った時に拍手ができた（リスペクト）等の意見が挙げられた。



### 4. まとめ



・オリンピックバリューは身近なところにもたくさんあるので、夢や目標を達成するためにオリンピックバリューを活かしてほしい。オリンピックはメダルが全てではなく、様々な願いや意味が込められている。東京2020大会では、千葉県でも競技が行われるので、様々な形でオリンピックに参加してほしいと伝え授業終了。







■ 集合写真

2年A組



2年B組





■ 集合写真

2年C組



2年D組



■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



2年C組



2年D組



■ 証明書贈呈

